



おいそ

議会だより

第131号

2005年(平成17年)7月27日発行



大磯今昔

合併時(昭和29年)の国府・六所神社付近

6月定例会

電子申請・新条例可決	2
大磯中学校・耐震改修へ	3
一般質問(町の考えを問う)	5~11
議員の賛否結果	11
輝いてます大磯人 ^{びと}	12

新条例を可決

住民票申請などインターネット利用が可能に

― 問題点も指摘 ―

「大磯町行政手続等における情報通信の技術の利用に関する条例」が提案された。趣旨と提案理由の説明、質疑のあと総務企画常任委員会に付託、否決されたが本会議で可決された。

新条例の内容

国の同様の法律施行にともない、町で条例化するものでオンライン化により住民の利便性の向上を図り、行政運営の簡素化・効率化に資することが目的。

今年7月から住民票の写しの交付や児童手当の申請など6項目、来年度からは大磯運動公園の利用申し込みや電子入札の導入を行う。

初日の質疑

問 利用するのに、いくらかかるか。

答 住民基本台帳カード登録の発行に500円、一部の申請に必要なカードの読み取り機購入に2千300円から5千円位かかる。

問 住基ネット回線を使うのか。ネット回線は使わず、イン

ターネットを使用する。

問 つなぐ仕組みはどのようになるのか。

答 県の共同センターに委託する。

問 運動公園は具体的にどのよう

答 申し込みの時間差ができるため電子申請のみになり、用紙での申し込みはできなくなる。

最終日

委員長報告に対する質疑

問 利用者見込みは。

答 その質問はなかった。

問 来年度からいくら予算がかかるか。

答 提出資料は15・16年度の金額だけだった。

反対

討論に反対3名賛成2名
・申請はできるが、交付や手数料の支払いは役場だ。今までと変わらず、かえって煩雑になる。

・横浜・川崎市が参加しないシステム加入は意味がない。県のいいなりは疑問だ。
・費用がかかるうえ、人件費削減も見えない。セキュリティの問題もクリアされない。じつ

委員長報告

総務企画常任委員会

新条例「大磯町行政手続き等における情報通信の技術の利用に関する条例」は、委員会として否決

委員長 坂田 よう子

6月3日、午前9時より当委員会に付託された新条例を審議。

町側から本条例案の解説と新たな資料6点(神奈川県電子自治体共同運営サービス実施予定一覧、電子申請・届出システムの概要など)が示された。

《主な質疑》

問 神奈川県電子自治体共同運営サービス参加の経緯は。
答 平成16年9月に共同運営協

くりメリット、デメリットを見極めてから参加をすればよい。
・電子化の意義は否定しないが、法律制定時、国は住基ネットの運用を土台におくことを明言している。監視・統制社会につながる。監視・統制社会につながる。時代の流れの先取りだ。大磯町だけ取り残されるとロスも大きい。問題はありますが、申請項目を増やすなどの努力を望む。

賛成

・政府のe-japan戦略を受け、町でもIT講習を行った。

議会がスタート。準備会は15年の秋ごろ。構成は34市町村と県、県内広域水道企業団が参加。

問 セキュリティーは万全か。
答 共同運営センターが入室管理の指紋認証など厳格に行う。自治体との間は専用回線を利用し外部侵入が不可能。職員のセキュリティ教育の徹底を行う。

問 サービス項目に印鑑登録証明書交付申請が含まれないのは。
答 サービス項目に印鑑登録証明書交付申請が含まれないのは。本人確認等が懸念される。費用予算は。

問 平成16年286万4千円。17年度は、516万1千円
問 手数料等の支払いは。
答 来庁し、窓口で支払う。

問 施設予約の町民優先確保
答 実施施設は、大磯運動公園

何ら反対することはなく、他市町村と歩調を合わせて欲しい。
・電子自治体の高度化は必要。基本的には便利になる。セキュリティは共同運営センターで万全となるよう管理されるだろう。時代の流れの先取りだ。大磯町だけ取り残されるとロスも大きい。問題はありますが、申請項目を増やすなどの努力を望む。

採決の結果、賛成9・反対7で可決された。

を平成18年3月から考えており、優先の仕組みを検討する。
問 電子入札に対する考えは。
答 来年度から参加する。同時に町内業者育成は課題であり、方法については検討する。

《討論》

反対の立場では、申請だけで手数料やそのもの自体の受け渡しを整備されていない。費用に対する認識が希薄。また、サービス項目が、近隣に比べ少ない。賛成の立場では、セキュリティの徹底と項目追加の検討を要望し、町民の利便性と行政運営の簡素化・効率化に資するために条例の制定は容認するとの意見があった。

採決の結果、賛成2・反対3の賛成者少数につき、委員会として本条例案は否決

大磯中学校ようやく

耐震改修へ

(株)紅梅組と請負金額1億8千900万円で工事締結

耐震補強工事は1号館16カ所、2号館10カ所、計26カ所の各教室と廊下の間、トイレの間に耐震壁を設置。大規模改修工事は1・2号館とも、屋上防水工事、外壁全面改修。内装の改修は、一部の部屋を除き、天井の張り替え・壁の塗装・床改修をし、トイレは1号館のみすべて改修する。空調機は、1号館に5カ

主な質疑

問 落札率は、予定価格に対して97・47%。入札については肅々と進んだ。

問 お金が無いから建て替えて耐震補強に変えたのか。

答 国の方針も、耐震補強改修工事を勧めていて、補助金も期待できる。

問 工事中の仮設トイレは50万円かかるので設置しないのか。

答 3号館の東側トイレも数があり、1号館の身障者用、職員トイレも開放する。数は基準をクリアしているので仮設を断念した。

問 体育館の耐震診断は。第4次総合計画の早い段階で、教育委員会としても耐震工事を要請する。

問 紅梅組の実績は。

答 県内では官庁関係。本町では大磯中3号館を昭和57年に、61年に1・2号館改修工事、平成7年に運動場の整備工事と学校関係に実績がある。

問 なぜ同じ所に指名するのか。意向確認型指名入札で行い、受注金額による経営事項の審査の総合評点数、公共工事の実績、経営状況、近隣の指名停止状況、公正取引委員会の判断など、指名選考委員会で内容を検討した。

問 工事金額の内訳は。

答 耐震補強工事、4千250万円、大規模改修工事、1億4千876万円、下水道工事866万円。

問 工事の期間は。

答 本契約後、工期的には来年の3月15日。2号館は夏休み中に主要工事をし、9月に使えるように、その後1号館にとの案を持つている。

問 シックススクール対策は。

答 保護者からも強いご意見があり、設計監理業者だけに任せ

るのではなく、NPO法人「シックスハウスを考える会」に、委託する。第三者的な意見を入れ工事に入るのには県下で初めて。子供の安全のために二重の方法をとった。あらゆる塗料・溶剤・部材のチェックから、工事の途中に至るまで見てもらう。

問 設計監理を楠山設計とNPO団体に頼む根拠は。

答 楠山設計がNPO団体と契約を結び、最終責任は楠山設計が負うことになる。NPO団体は2002年から活動を開始し、現在、学者を含めたシンポジウム、講演会、シックスハウスのアドバイザーの講習会等、全国的にシックススクールも含めての啓発活動に尽力している。

問 分割発注が可能だったのではないか。

答 町としては、最近では分割発注はしていない。経費が割り高くなり、工事現場に業者が多く入る。受注業者には町内業者を使って欲しいと説明している。

問 この工事での耐用年数は。

答 柱の中の鉄筋の中性化が進んでいないので、定期的な修繕をして行けば長く持つ、具体的には何年とは言えない。

討論

反対

生徒のためになるものなのか、広域避難場所の要件を備えるものなのか、予算執行する時の動機が純粋であるか、手続きは正しいか、効果があるのかなどの点からも納得しない。耐震に4千250万円しか使っていないのは偽善。

賛成

耐震改修事業で国からの補助金が多く出る。シックススクール対策も責任ある方式で進む。予算も可決しており、子供たちに安心して勉学に励んでもらいたい。

採決の結果、賛成多数で可決



保護者説明会



委員長報告

福祉文教常任委員会

30人学級実現などを求める陳情は趣旨採択

委員長 柴山 賢一

陳情の提出者

中地区教職員組合 岩田裕之氏

陳情の趣旨

学校を取り巻く環境は非常に厳しい。課題が山積している。

21世紀を平和で希望に満ちた時代にするためにも、子どもたちを大切にすることを保障が重要。抜本的な学級編制と教職員定数の見直しを求める意見書を国にあげること。

提出者から現場の状況説明を受け、町・教育委員会と質疑を行い分かったことは、

・町教委、町長も、30人以下学級の実現を望んでいる。

・町立小・中学校の不登校児数は合計36名。適応指導教室、教育研究所で慎重に対応している。

・褒める教育は大切。一日10回褒めようと取り組んでいる。

・神奈川県では昨年と今年、小学一・二年生対象に研究校とし

て学級編制を35人以下に自治体判断でできるようになった。

職員数は同数のため、町では今までどおりティームティーチング方式を行って

いる。寒川町などでは町独自の予算で教員加配をしていると聞く。

・先生の不登校は全国的に多いと考える。当町ではそれに近い形で休職者がいたが、現在は復帰している。教育研究所の役割も大きい。

討論

・子どもや保護者の多様化にきめ細かな対応をするためには、

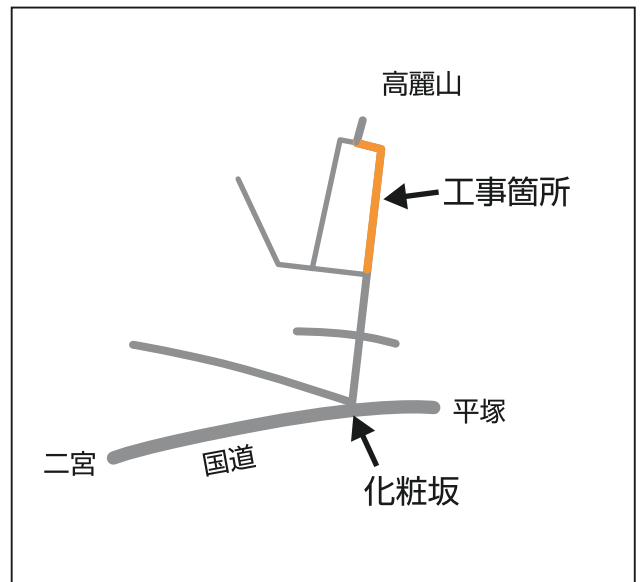
どうしても一クラスの人数を少なくすることが必要。教育現場の切実な声に応え、義務教育を行う国に意見書を提出したい。

- ・前年に提出された内容と同質、進歩が見られない。40人を30人にすれば良いという根拠が乏しい。ハード面での問題解決も必要だろう。少子化が進んでいるので、様子を見たい。

採決の結果、採択2・趣旨採択3で趣旨採択と決した。



下水道事業・事故繰越し



公共下水道整備事業の雨水管整備工事で年度内完成ができず平成17年度へ繰越したため議会に報告があった。

町道高麗18号線へ雨水管を埋設する工事で、直径600mmの水道管と既設排水管が想定外の位置に出てきたため事故繰越しをし、4月20日に完成した。

問 入札価格より210万円増額になった訳は。

答 既設の排水管の撤去と仮排水を設置したため。

問 なぜこんな事が起きたのか。今後はさらに精査した上で事業を進める。

主な質疑

問 水道管の位置を工事前に調べたか。また、埋設図の把握は。

答 試掘調査はしたが、実際工事中に三差路の北側に600mmの水

問 児童虐待防止対策への充実は

答 詳しく周知し、地域の力で気軽に話し合える雰囲気づくりを

奥津 勝子

問 今、虐待という形で幼い命が失われ、また、命には及ばなくとも子供の発育と性格形成に、悪影響を及ぼす事件が後を絶たない。県下5カ所の児童相談所への相談件数が、5年前の約3倍に増えている。4月から法改正により、子育て介護課で虐待に関する通報を受ける事になった。通告対象が「虐待の事実が確認出来なくても、その疑いがあれば早期に通報する」となった。虐待の発生予防への対応は、

問 県のガイドラインに沿った相談窓口は。

町民福祉部長 相談コーナーとプライバシー保持のための専用回線は検討、専門職員設置への財政支援は県に要望。家庭への訪問職員の対応は研修会に参加。町長 閉鎖的に悩みをかかえてしまう人が問題と思う。困っている人のSOSを聞き出すことは難しいが、地域力の協力で気軽に話し合える雰囲気作りを。

町長 虐待について理解してもらうことが大切。町施設や相談窓口で啓発リーフレットを置き、子育て支援センターでも電話で相談を受けている。乳幼児は、保健センターでの育児相談や健康診査時に、医師、保健師でケースの把握を。幼児児童は、保育園・幼稚園・学校から迅速に。主任児童委員、民生委員も情報収集を。

問 早期発見や通報への啓発は。町民福祉部長 要保護児童対策協議会を早期に設立し、公用車へのステッカーも検討する。



相談コーナー（保健センター）

問 生涯スポーツ社会めざして

答 運動公園・チャレンジフェスティバルを開催

百瀬 恵美子

問 便利な生活環境が整ったことや社会の様々なストレス等と健康が維持できない。また、子供たちの運動能力の低下が指摘されている。町民のだけれどもが生涯にわたり身近な場で、いつでも、気軽にスポーツやレクリエーションを楽しめる体制の整備を。町民ニーズに応じた相談は。

傷害事故の対策KYTの導入

問 学校の傷害事故が、年々増加している。発生要因別に検証し、安全対策が急務である。安全教育の具体策であるKYT（危険予知トレーニング）の導入は。

教育長 学校傷害事故について日常生活の中で安全管理や点検につとめている。予知トレーニングは、幼・小中学校で大磯町独自のKYTを導入していく。

町長 各種団体と連携を計り利用拡大を進め、10月2日に開催されるチャレンジフェスティバルを町民の皆さんに気軽に利用できるキッカケとしたい。今年アクセス道のルート検討をする。問 皆の生活にスポーツ文化を定着させる画期的な総合型地域スポーツクラブの設置は。町長 クラブ創りは、21世紀に新たな対応と考えて理念を周知しながら体育協会の協力を頂き総合型地域スポーツクラブを視野に入れ取り組みをする。



運動公園多目的広場

問 野村研修所跡地は第二の藤村邸前の土地にならないか

答 その様にならないように任期中に方向性を明確に示したい

土橋 秀雄

問 旧野村跡地購入は正しい判断であったと認識し目的、意図する方向に進んでいるか。

町長 本町の豊かな自然環境を保全し生涯学習や子供の健全育成等様々な利用方法が考えられ将来の町づくりの拠点となる土地として購入、自然体験等の総合学習の場として既存施設を利用、最小限の経費で整備。休憩所やトイレを修理、5月から一般開放を行い、今後団体利用のルール作り、町民ボランティアの募集、夏休み自然観察会や果箱作り等の開催を考えており、政策推進プロジェクトの重点事業に位置付け検討。

問 藤沢・大磯線は何故、大磯町だけ都市計画決定しないのか。

町長 県の整備促進協議会の席で、私の質問に県の県土整備部長は「大磯町は、まだ都市計画決定はされていない。まず都市計画決定をして頂きたい。」という回答。ここで直ちに都市計画決定というのも膨大な予算と労力がかかる。別の形でマリア道の整備を考えていく。



旧野村跡地へのアクセス道路

助役 国の補助事業でもあり運動公園も北側の駐車場に集中。野村跡地の活用も踏まえ早急に整備をと認識しており、具体的な計画作りを進めたい。

問 10年以上も前7千300万円の町税を投入した藤村邸前の土地も現在進展無し。野村跡地も第二の藤村邸前の土地と同じか。

町長 野村跡地がその様にならないように任期中、方向性を明確に示したい。

問 子育て支援センターの活用について

答 育ちの場として、専門スタッフによる相談事業の充実を

竹内 恵美子

問 4月、5月の利用状況は。

町長 4月は親子で122人、5月は親子で54人、電話相談は4月は26件、5月は21件だった。

問 PRの方法を考えてみたらいかがか。

町民福祉部長 ポスターやリーフレットを作成し、公共施設に置き啓発。

問 支援センターに来るための交通手段を増車も含めて効率的な運行は考えられないか。

町民福祉部長 町の中型バスは、老人会関係の送迎でほぼ満杯。子育て支援センターの利用者のための循環バスは財政的に難しい。

問 横溝千鶴子記念障害福祉センターのこれからの施策は。

町長 総合相談窓口とし、福祉活動の場、障害者と地域とが交流する場として充実を図る。

問 障害者福祉計画ができ、実施するための進行管理が重要であるが、その体制は。



子育て支援センター

町民福祉部長 社会福祉委員会で検討。医師、民生委員児童委員、社会福祉施設職員、神奈川県職員の8名で構成。

問 精神保健福祉士の配置は。

町民福祉部長 7月より横溝千鶴子記念障害福祉センターに1名、週2回精神保健福祉相談員として配置。

問 障害者支援と町営住宅ストック計画は。

町民福祉部長 17年は町営住宅の用地測量のみ。

問 本年度施政方針への取り組みについて問う
答 町民サービス向上のために各種の事業を進めている

山口陽一

問 町の東西南北等の幹線道路計画が今だにできないのはなぜか
答 道路計画について認識の違いがあるので確かめたい

山田喜一

問 防犯灯の設置は地域毎に相格差がある。とくに暗い場所では防犯灯の明るさを20Wから40Wにするとかにしてほしい。
防災担当参事 よく検討する。

問 野村跡地は5月から一般公開されているが、知らない町民も多い。広報や町の掲示板・公民館などを通じて公開を周知徹底し、多くの町民に現地を見てもらうことが大切である。「現地の駐車場」にも「跡地活用意見書箱」を設置して町民の意見を聴取することも必要である。さらに、公募のメンバーによるワークショップも活用したらどうか。

企画担当参事 よく検討する。

問 ドウ・ゼ・アンなど町の歴史的建造物を保存していくためには、町民の協力が必要である。町民参加の一環としての「町民債券」発行についても真剣に検討したか。
総務部長 あらゆる方策を検討する。

問 大磯町には吉田茂はじめ政界・財界・文人など多数の著名人が係わってきた。町民講座として、「義経・西行と嶋立庵」「歴代首相と大磯」などの講座を定期的に開催したらどうか。
教育次長 積極的に検討したい。

問 虫窪・西久保方面のバスが土・日曜には全廃されるとのことが、地域住民への影響が甚大である。町営のマイクロバスを運行してほしい。
町長 地域住民と相談したい。



嶋立庵

問 12月に決定するまちづくり基本計画案に再三指摘した道路計画が明記されていない。県に問い合わせたが、計画決定はさほど手間と費用はかからない。関係者に対する説明責任はあるが、地権者の同意などは実施設計時まで不要。まちづくりを都市計画に基づいて進める基本姿勢がないのはなぜか。

町長 都市計画がまちづくりの基本は理解できるが、しかし道路計画は測量や費用など大変な事務量になる。地権者や町民の理解なども必要になる。調整区域の問題もある。計画はないが既存道路の整備を考えたい。

問 都市計画と実施設計が混同している。県を含めて町の見解を見直しすべきではないか。
町長 道路都市計画について認識の違いがあるので議員と確認する機会をもちたい。

港まちづくりは進んでいるか

問 国・県からも町の緊急重要課題として提起されている港まちづくり計画の取り組みがおそい。予算も4万円しか計上して



大磯魚市場

いない。町の姿勢はいかに。
町長 まちづくりの拠点として位置づけ、港まちづくり協議会の設立に向けて役割、目標、メンバーなどを県と協議している。早急にスタートしたい。
その他質問 ①ドウ・ゼ・アンの保全と歴史的建造物のあるまちづくりは②電子入札と地域業者の育成強化は③嶋立沢の汚染悪臭対策は・EM菌活用は。

問 ごみ処理広域化の方向性選択は最善か

答 1市2町でおたがいがいい形で大事業をうまくスタートしたい

浅輪いつ子

問 なぜ環境面、財政面の検討が不完全なままごみ処理広域化を決定したのか。

町長 1市2町の事業なのでそれぞれに事情があり地元対策も考え早く方向性を考えた。

問 広域化で事務委託するとごみは町の事務でなくなる。この点でも問題だ。ごみ減量により環境を守り経費削減の方向をとるか、またはごみをどんどん出してガス化溶融炉などで処理するか、将来のためにその選択が問われている。町長は最善の選択をしたと考えるか。

町長 みなさんの心配については実施計画策定の中で考え物申していきたい。1市2町でおたがいがいい形で大事業をうまくスタートしたい。

斜面地マンション条例制定は

問 滄浪閣北に見える代官山に斜面地マンション計画が再び出た。周りの環境との調和、生活環境への配慮がない。早急に条例を制定すべきだ。町の考えは。

町長 良好な環境を守る区域での住宅地下室の容積率不算入措

置を活用して大規模な建築物が建設され住環境の悪化を招くことは制限していくべきと考える。

問 その対策は。

町長 規制効果が的確に発揮できよう早急に検討する。

問 条例制定への取り組みは。

都市整備部長 予定では本年12月のまちづくり条例の改正に議案上程したいが、別の条例とするかは検討課題としたい。



ペットボトルの選別（美化センター）

問 財政破綻を認めた三沢町長の具体的改善策を問う

答 財政健全化計画において検討していきたい

吉川重雄

問 三沢町長が言い続けて来たことと、今行われている行政運営とは、大きな乖離がある。財政破綻になると言っている中で今後の借金はいくらになるか。

町長 今後の借金は、平成22年度末には172億円以上となる。

問 財政難で、特に固定資産税の最終期が11月末日となっている。他の市町村の多くは2月末日となつて何んと我が町は3カ月も早く税を納めないと、延滞税14・6%のものがつく状態を良いと思うか。

町長 町民に負担をかけているとは思わない。

問 町民が納税しやすくする為にコンビニで税金を納めることが出来る事を考えないのか。

町長 お金がかかるので考えていない。

問 町民の為の人事配置は万全に行われているのか。例えば公園を管理している部署の三人の職員のうち二人が運転出来ない状況になっている。前年に幼児の事故が起つている。町内39カ所の公園がきちんと管理されているか。川尻公園の遊具は何年

も壊れているがそれでいいのか。

都市整備部長 緊急時には、都市整備課全体として対応したい。遊具はすぐに直す。

問 史跡めぐり観光客の方に、ガイドボランティアの案内の方があいさつの最初に車でトイレをすまして下さいと話します。これで観光立町と言えるのか。はずかしいと思わないのか。

環境経済部長 見直していく。



観光案内板

問 町営住宅がいつまでたっても更新できないのはなぜか

答 建て替えしようとしたら隣地との境界が確定してなかった

柴崎 茂

問 町営住宅の建て替え計画が既に出てきているにもかかわらず一向に建て替えが進まないのはなぜか。また、4月21日の総務企画常任委員会で問題になった入居の後の所得制限が守られていない事があった。その会議で出席していた職員は、平成6年までは、町営住宅に入居している。職員間では周知の事実だ。電話帳や、職員住所録そして明細地図を見ても明らかだ。職員が所得制限を超えても町営住宅に入居していられたのはなぜか。町職員だとだれでも特別な便宜がはかられるのか。

町長 大磯町町営住宅ストック総合活用計画は今年3月に作成した。今年度には、町営住宅用地の境界がはっきりしていないかつたので用地測量を実施する。また、町職員だからといって特別な便宜は、はかっていない。入居の際の所得制限に触れなければ、職員もはいれる。

問 町営住宅は、公務員住宅ではないはずだ。いつから大磯ではそれに公務員がはいつてもよい事になったのか。職員でも差

別しないというのは、この件ではとんでもない事だ。町長のその考え方は非常に問題だ。なぜなら、職員の人事異動の際、町営住宅所管の福祉課にいかないという事は明記されているのか。人事異動に関する特別な制限があるならその方が余程問題だ。職権濫用を容認するのか。

町長 ずいぶん昔の話だ。



町営住宅

問 エコループ事業は不参加と中止要請を

答 事業には不参加・公害想定は要請済み

鈴木 京子

問 山北町で一般廃棄物と産業廃棄物を中間処理する「エコループ事業」は、ごみの運搬に鉄道を使う。

大磯町、高麗3丁目の相模貨物駅には広い地域からのごみが積み込まれることになる。

民間が行うこの事業は、施設の安全性が検証されていないばかりか、町にとっては大型車の増大で「交通事故、渋滞、騒音、振動、排気ガス」など環境悪化が予想される。

20トン車で仮に90万人分の一般ごみを運ぶと、一日延べ240台となる。産廃は8倍排出されているので、もの凄い数の車が町に集中することになる。

町長は、エコループ事業の不参加はもちろん、中止要請をすべきと考えるが、いかがか。

町長 エコループ事業は今回参加せず、一市二町の広域化で行うことを決定した。

経済環境部長 公害の認識は持つており、シミュレーションを頼んだが、結果はまだなので再度促していく。

大磯駅エレベーター等設置は

問 大磯駅のバリアフリー化について、町は18年度実施と答えているが、JRに聞いたところ、時期も含め町と協議、調整中とのこと。心配なのであえて伺う。また、橋上駅舎の概算予算は。

企画担当参事 当初の計画どおり今の駅舎を活かした形で18年度に工事を行うよう進めている。橋上の場合12〜13億円かかる。



相模貨物駅

問

ごみ発生抑制額を財政健全化計画に載せるべきでは
数値を盛り込めるか相当な決意がないと
できない

大坂 聖子

問 「ごみの発生量抑制」が大磯町の財政健全化に不可欠であり、このことを「大磯町財政健全化計画」に目標数値を掲げて記載すべきと考えるが、8月頃までに策定する予定の素案に盛り込む考えはあるか。

町長 ごみ減量化対策が進み、ごみ処理経費の削減に効果があったかを慎重に判断してから計画への反映を検討する。

問 毎年学校運営費を削減してまで、ごみ処理に無駄なお金を使うのは理解できない。ごみの発生抑制の目標も、大磯町のごみ処理基本計画にすでにうたわれている。財政健全化のために、ごみ発生量抑制によるごみ処理経費の削減額を計画に載せて、町民に訴えないのはなぜか。慎重に判断し、検討することではないと考えるが。

町長 これだけ減量すればこれだけ金額が浮くという事は示せるが、財政の健全化のなかでひとつ盛り込んでいくのは、相当な決意がないと出来ない。



ペットボトル回収車

問 ペットボトル一本のリサイクルにもこれだけのお金が掛かるということを、数値として具体的に町民に示すことで、危機感を共有することができ、処理費用の算出にあたり町民と協力し、より一層のごみの発生量抑制に取り組むべきではないか。

環境経済部長 具体的なごみ処理の費用算出については、ごみ減量化等推進員さんと町とで協力的に進めて行きたい。

問

子どもの読書環境整備とブックスタートについて
ブックスタートは意義ある事業、積極的に
考えていく

渡辺 順子

問 学校図書室の蔵書数の不足と今後の購入予定は。

教育次長 大磯小5千冊、国府小は1千400冊、大磯中学で3千600冊が標準数に不足。

図書購入費は4校で年間約120万円。1校あたり150から200冊購入している。今後一段と標準に近づけるよう努力し、廃棄・更新も図りたい。

問 障害児用の図書の整備は。

町民福祉部長 町の現状では整っていない。今後関係団体に図り整備してゆく。

問 図書館は文化的・教育的に重要と位置づけられる。指定管理者制度を導入するのは正しい選択か、また基本的な考えは。

教育長 図書館の指定管理者制度は単なる行革であってはいけないと考えている。文化発信、教育機能を持つ図書館であらねばならない。司書の資格にこだわらず、有能な人材を配置しているところや、NPOに委託している町もある。町民のためになり、ボランティアの活動が保証され、文化や教育に対し、積極的に活動する図書館のあり方を考える。



図書館

問 家庭で赤ちゃんが絵本を通じて暖かい時間を持つことは、赤ちゃんの心を豊かに育む。地域で生まれた赤ちゃんをみんなで大切に育てようという、ブックスタート事業に取り組んではどうか。

町長 子どもと親のふれあいが、静かに過ごす時間は大切だ。積極的に考えていく。

問 景観政策・国道一号「電線の地中化」に対する姿勢を問う
答 松並木の景観を生かした沿線整備を国に要望
 坂田よう子

問 景観政策に基づいた国道一号の「電線地中化」により大磯の景観はどのようになるのか。

町長 国は、景観政策である電線共同溝「電線の地中化」に伴い、国道一号の沿線整備を行う。この整備を通じ、大磯のまちづくりには緑と歴史のある文化意識が生かされた景観形成が行われるよう国に要望書を提出。

問 町民意見の中には、町にとり「松」は大磯宿の名残を残す資産、「未来の松並木づくり」を視野に国道のポイントとなる場所への松の植栽等を希望したと聞いているが。

都市整備部長 町民意見に沿い、優れた環境や景観を生かした沿線整備を要望。さらに、景観計画の策定にも参考とする。

「みなとまちづくり」は・・・

問 「みなとまちづくりプロジェクト」は、港を拠点としたまちづくりプランの策定を目的に期待の声が高まっている。

大磯海岸では、「海開き」。民間でも「海のシンポジウム」や海をテーマに「大磯こどもまち



電線の地中化工事

づくり会議」が展開。更に、今年には、神奈川県で「全国豊かな海づくり大会」が開催。「何も動かない！」と不安を持たれているのでは。駐車場やトイレなど港をめぐる課題は山積。海のシーズン直前「みなとまちづくり」はいつスタートか。
企画担当参事 県と調整し近々みなとまちづくり協議会を開催。

議員の賛否結果

議案番号	議員名 (議席順)	熊木博	竹内恵美子	奥津勝子	吉川重雄	百瀬恵美子	大坂聖子	柴山賢一	柴崎茂	山田喜一	高橋正克	山口陽一	浅輪いつ子	坂田よう子	鈴木京子	高橋英俊	渡辺順子	土橋秀雄	結果
27	大磯町行政手続等における情報通信の技術の利用に関する条例	○	●	○	退	○	○	○	●	○	○	●	●	○	●	●	○	●	可決
28	工事請負契約の締結について	○	○	○	●	○	○	○	●	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	可決

○は賛成、●は反対、退は退場、欠は欠席。

議会の日	内容
4月	5日 議会だより編集委員会 11日 議会だより編集委員会 15日 議会運営委員会／議員全員協議会／議会だより編集委員会 21日 総務企画常任委員会・協議会 25日 建設経済常任委員会・協議会 28日 議会だより編集委員会
5月	6日 総務企画常任委員会・協議会 16日 議員全員協議会／議会運営委員会／議会だより編集委員会 18日 建設経済常任委員会 26日 議会運営委員会 30日 議会運営委員会 31日 建設経済常任委員会／議会運営委員会
6月	1日 本会議 2日 福祉文教常任委員会 3日 総務企画常任委員会 8、10日 本会議 16日 議員全員協議会／議会運営委員会
7月	21日 建設経済常任委員会・協議会 23日 総務企画常任委員会 24日 福祉文教常任委員会・協議会 27日 議会だより編集委員会 8日 議会だより編集委員会 15日 議会だより編集委員会 20日 第3回臨時会／議員全員協議会



広い土地にカボチャを棚作り
するという珍しい方法で栽培し
ている添田洋一さんとご両親の
崇義、節子さんをお訪ねしまし
た。

ご家族は四世代、9人の大家
族です。洋一さんは会社勤めを
やめ、家業に取り組んで10年、
きゆうり、みかん、稲作もと
忙しい毎日ですが、休息と研
究もかねて日曜日は休日とは
つきり決めているそうです。

つくられるカボチャは都カ
ボチャ、メルヘンカボチャの
2種類。2月に種をまき、3
月下旬に移植、ビニールでト
ンネルを作り、大切に育て、
4月下旬にはビニールをたた
み、今度はパイプでトンネル
を作り、ツルをからませその
後、花がつき45日前後で収穫
となります。こんなスケジュ
ールがサラサラと語られる研
究熱心さ。



風通しがよく、地面に触れな
いで作られるカボチャは、見た
目も美しくホクホクおいしいと
市場でも評判の人気だとか。

自然が相手の農業で、天候に
左右されやすいのが心配の種。
例年だと1本のツルから3、4
個は収穫できるところ、今年
は雨が少なかったために、茎が細
く実なりが悪いと、だいたいぶ
気になる様子。

安全でおいしい作物の供給を
目指して、受け継ぐ所はしつか
り受け継ぎ、新しいやり方も、
熱心に研究する若い後継者に
恵まれた添田さん。
まぎれもなく明日の大磯町の
農業を支えるご一家です。

今回提出の請願・陳情

陳情第9号

地方の財政力を強化し、義務教
育費国庫負担制度を維持するこ
とについての陳情

【机上配布】

陳情第10号

「障害者自立支援法」(案)に関
する陳情

【机上配布】

陳情第11号

平成18年度の義務教育費国庫負
担制度の堅持を求める陳情

【机上配布】

陳情第12号

ゆたかな教育を実現するため、
平成18年度の教育予算増額を求
める陳情

【机上配布】

陳情第13号

個に応じた教育を実現するため
の学級規模の縮小・弾力化、30
人以下学級実現を求める陳情

【趣旨採択】

陳情第14号

住民基本台帳法改正の意見書提
出を求める陳情

【机上配布】

陳情第15号

「米国産牛肉の拙速な輸入再開
に反対し、BSEの万全な対策
を求める」意見書採択について

の陳情

【机上配布】

《前号掲載漏れのお知らせ》

平成17年度予算特別委員会

委員長 山田喜一

副委員長 渡辺順子

委員 熊木博

吉川重雄

山口陽一

坂田よう子

鈴木京子

高橋英俊

土橋秀雄

9月定例会のお知らせ

1日(木)から開催します。
問い合わせは、議会事務局
TEL 61-4100(内)281
FAX 61-1991
E-Mail gikai@town.oiso.kanagawa.jp

編集後記

この2年間、議会の内容を町
民の皆様に、いかに関心を持つ
て頂けるかをテーマとして

① 表紙を「大磯今昔」と決め、
風物の移り変わりなど、過去
と現在との違いを紹介致しま
した。

② 議会の「賛否結果」を表に
し、議員個人の採決を明白に
提示致しました。

③ 「輝いてます 大磯人」は町
内で2代、3代と家業に頑張
っている若者とその家族の姿
を紹介致しました。

以上の3つは様々な反響を呼
び皆様からアドバイスや激励の
言葉も頂き頑張つて参りまし
た。この号で当編集委員会は終
了します。ご愛読いただき心よ
りお礼申し上げます。

議会だより編集委員

委員長	鈴木京子
副委員長	浅輪いつ子
委員	竹内恵美子
	奥津勝子
	渡辺順子
	土橋秀雄
	清水弘子
副議長	熊木博
議長	熊木博